

『空と風と星と詩

尹東柱全詩集』

国際言語文化学科

李 正勲先生

推薦図書

飾らないが、雅やかな言葉で綴られた多数の詩と散文を遺し、1945年2月、27歳という若さで獄死した詩人「尹東柱」(ユンドンジュ)。「死ぬ日まで天を仰ぎ、一点の恥じ入ることもないことを」から始まる「序詩」は、今でも多くの人に愛され続けている代表作であります。詩人尹東柱は1941年12月に今の延世大学校の前身である「延喜専門学校」を卒業し、1942年3月立教大学に入学した後、本格的な作品活動に専念しようと同年10月に同志社大学へと編入学します。この時の日本といえば、すでに戦時総動員体制が広く敷かれつつ、朝鮮でもまた社会の統制が一段と強まりつつあった時期であります。1943年7月、尹東柱は帰国の途に就こうとしたものの、思想犯として逮捕され福岡刑務所に収監されました。罪名は、朝鮮の独立を企てようとしたことが理由でありましたが、この日をもって故郷の土を踏むことができなかつたのです。

尹東柱は生前、詩集など正式に出版したことがなかつたのですが、1947年2月先輩詩人である鄭芝溶が尹東柱の遺作を新聞紙面で紹介したことで大きな反響を呼び、その後韓国と日本で彼の詩集が刊行されるようになりました。本書の編訳者である金時鐘は尹東柱の作品を、「飾ることの一切を切り去って…伝えたいことはほとんど暗喩(メタファー)となって読者に迫る」ことにその表現力と魅力があると解説しています。

時には抵抗詩人として、また民族詩人として、そしてクリスチャン詩人という、様々な見方で評価されてきた尹東柱。今もなお世界中の多くの人の中で詠まれ続けている「序詩」や「星を数える夜」をはじめとする数々の作品には、「生きることはなにか」を問い続けた尹東柱自身の悩みと省察が凝縮されているといえます。

図書館で
読んで
みよう!

『空と風と星と詩 尹東柱全詩集』
尹東柱 [著] 尹一柱 編 伊吹郷 [訳]
出版社 影書房
1997/12/10 発行
【請求番号：929.11/I 51】

冬季長期貸出の
返却期限は、
1月15日(火)
までです。
返却忘れに注意!

空と風と星と詩



하늘과

尹東柱 全詩集
伊吹 郷訳

